

令和元（平成31）年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立桜町高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教諭(総務主任兼務)=事務局長、総務部員4名 計5名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主任教諭(生活指導担当)、主幹教諭（進路指導担当）、主任教諭（総務担当）、主任教諭（1学年担当）、主幹教諭（2学年担当）、主幹教諭（3学年担当） 計10名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長、PTA副会長、元PTA会長、同窓会長、学校医、近隣中学校長、近隣自治会代表2名、近隣警察署代表、近隣消防署代表、 計10名

2 令和元（平成31）年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
第1回 令和元年6月28日（金）内部委員9名、協議委員5名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、本校の現状と課題の説明、宿泊を伴う避難訓練の計画、意見交換
第2回 令和元年10月24日（木）内部委員10名、協議委員8名
学校経営の報告、予算執行状況、これまでの教育活動に関する報告、宿泊を伴う避難訓練の反省、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
第3回 令和2年3月2日（月）内部委員10名、協議委員6名
学校経営の報告、予算執行状況、授業公開、これまでの教育活動に関する報告、学校評価の報告、学校運営に関する協議、提言、今年度のまとめと来年度への課題
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和元年10月24日（木）内部委員2名、協議委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、内容の検討、実施時期の検討
第2回 令和2年3月2日（月）内部委員2名、協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で学校経営計画に基づき評価する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
12～2月に実施。全校生徒・保護者全員・教職員全員・近隣住民
- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、家庭学習、生活指導、進路指導、部活動・学校行事、健康安全指導、学校の施設・設備等
- (4) 評価結果の概要
生徒の回答は、概略昨年度と同様の推移をしているが、項目によっては学年によって大きな差が見られた。生徒は概ね本校の教員の授業に満足しているが、家庭での学習は定着しているとはいえない。保護者の回答は、昨年度より肯定的な回答が増加したのもあったが、わかりやすい授業、情報発信、学校への満足度などは減少している。
教員はいずれの項目とも高い肯定率だが、生徒との結果と突き合わせると満足度の差が見られる。地域に関しては、昨年度と質問形式を変えたが、生徒のルールやマナー、行事や部活動、地域イベント等の参加、いきいきとした生徒の様子が認知されている。
- (5) 評価結果の分析・考察
保護者、生徒、教職員の各アンケートは、一部の設問を除いて多くの設問に肯定的な回答が見られ、学校は比較的良好な状態にあると判断される。
保護者アンケートでは、さらにより多くの保護者が学校に*足を運び、教育現場を良く理解してもらう必要性は今回のアンケートからも窺える。また、学校の様子などを分かるよう情報発信の機会を増やしていく必要性が、生徒・保護者のみならず地域アンケートからも同様な傾向がみられる。
毎年のことではあるが、生徒の家庭学習の習慣は1学年の時から定着させるように家庭、学校とも一層の努力が必要である。特に2学年の家庭学習の少なさが目立っている。
生徒の学習に対する意欲は、ここ数年ますます高まってきており、教員の授業に対する批判的な回答が多く寄せられた。同様に教員アンケートでも生徒に対する対応に否定的回答があり、現実に即した結果が出ている。今後、学校として、教員個々がいかに生徒の学習意欲を引き出すかが本校の今後の進路

実績に結び付くものと考えられる。このことは、特に今回の学校評価で肯定的回答が多い3年生が進路実績で結果を出したことからいえる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

今回の学校評価では学年により大きな差が見られたが、学校評価で肯定的回答が多い学年は、学年運営を含めて生徒が良い環境で学んでいることが明らかになった。

地域住民の期待が高くなっていることに生徒は理解をしているが、教員には、まだまだ浸透していない面も見受けられた。今後、地域住民との交流を含め、さらに指導していく。

また、家庭学習の習慣付けの重要性が再確認された。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

保護者をいかに学校に足を運ばせるかについて、今まで以上に工夫が必要である。

近隣の住民は、学校の協力・交流を望んでおり、それをどう受け止めるかに課題がある。地域社会との連携を深め、今後とも良好な関係を維持・発展させることが必要である。

生徒の家庭学習の習慣付けは、学校だけでなく家庭にも応分の努力が求められている。しかし、教員もきちんと対応できていない面があり、双方の努力を継続する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

桜町高校の伝統を維持しつつも、新しい桜町高校スタイルの模索が求められている。

行事を中心とした生徒の内面の成長を図る取り組みを、さらに進展させる。

北京・ワイ文中学校との国際交流をさらに積み重ね、また、英語教育推進校の指定は今年度で終了するが高大接続の観点からも英語教育の推進は必要である。

(2) 学習指導

家庭学習習慣の確立を図るため、授業規律の徹底に加えて、生徒に努力する大切さを学ばせることで家庭学習の習慣化に結び付ける学習活動をさらに推進する。

学力スタンダードを学習活動の基本に位置付け、多様な進路希望を持つ生徒に対応しつつ、生徒の進路希望を実現させる教育を推進する。

(3) 特別活動

部活動の活性化を図り、加入をさらに促進させることで充実した高校生活をおくる基盤整備を行う。

体育祭・文化祭の他、日常活動から学校・学年の行事を自ら主体的に執り行える活動を推進する。

(4) 生活指導

遅刻指導・頭髪指導を通して、生徒に規範意識を植え付け、自らを律する態度を育成する。

(5) 進路指導

生徒の進路希望を実現させるため、個に応じた指導を充実させる。

現役大学合格率60%を維持しながら、生徒の夢を叶える学習活動を実践し、一般受験合格者の大幅増加をさらに維持し続ける。

(6) 健康・安全

保健室利用状況の改善を図り、スクールカウンセラーの積極的利用を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 回答数 6名/10名中

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	1	1	1			

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

本年度は、いずれの会議にも参加はなかった。

8 その他

保護者のアンケート回収率を更に高める方策が必要である。

保護者が学校に来る機会をさらに増やし、PTAと協力して、参加を保護者に呼びかける施策を実施する。

学校評価は、同様な傾向に終始しているため、今後内容について新たな検討が必要である。

ライフ・ワーク・バランスの推進に関する項目を追加した。